

## 第2回富田林市建設工事総合評価審査委員会議事録

- 1 開催日時 令和4年12月28日（水）午前10時00分～午前12時00分
- 2 開催場所 市役所3階 庁議室
- 3 出席者 委員7名、担当課（総務課新庁舎建設PT）3名、事務局（契約検査課）4名、支援業務受注者（明豊ファシリティワークス㈱ 以下、MFW）3名
- 4 開催形態 公開（傍聴人 人）・**非公開**・一部公開（傍聴人 人）

### 【非公開・一部公開の理由】

会議の公開に関する指針3.（2）、（3）該当

## 5 次第

1. 開 会
2. 議事

- （1）第1回アンケート結果の概要及び第2回アンケート調査について
- （2）新庁舎建設工事 施工者選定方針（案）について
- （3）新庁舎建設工事の事業者選定に係る委員会のスケジュール（案）について

## 3. その他

- 6 審議の経過及び委員会等の結果等 全文筆記・**要点筆記**・議事要旨  
議事録公開時期：事業者選定後

## 2. 議事

- （1）第1回アンケート結果の概要及び第2回アンケート調査について  
・アンケート結果の概要と第2回アンケート調査について事務局より説明

【委員】 アンケートは、事業者が参加しやすい条件と、市として求める要件を調整することが目的と理解してよいか。

【事務局】 お見込みのとおりである。

【委員】 第1回アンケートの事業者からの回答で、技術評価について配置技術者の経験ではなく純粋な技術力の評価を求める声があるが、どのように技術力を評価するものか。第2回アンケートにおいて、これを確認する質問を追加する必要はないか。

【事務局】 第2回アンケートはすでに配布しているので、アンケート回答者に依頼して、内容を確認させていただく。

【委員】 求める配置技術者に監理技術者とあるが、施工管理を実施するのは管理技術者ではないか。

【事務局】 建設業法で配置を定められている監理技術者のことである。

【委員】 配置技術者の実績要件について、どのような実績要件であれば参加困難と考えられるか。

【事務局】 事業者の繁忙状況等も影響するので、第2回アンケートで確認するものとしている。

【委員】 実績要件として過去10年以内の実績と限定している理由は何か。

【事務局】 本市の入札における資格要件として過去10年以内での実績を求めているので、それに合わせている。

【委員】 過去10年以内とした理由としては、例えば、新しい技術に対応可能であるとか、一定の年齢層のところで技術者を配置するということで年数を設定しているという理由が挙げられる。今後のことも踏まえて、その年数の意味についても考慮していただいた方が説得力があると思う。

## (2) 新庁舎建設工事 施工者選定方針（案）について

### ・施工者選定方針（案）の内容について事務局より説明

【委員】 本工事の全体工期はどの程度であるか。

【担当課】 約5年間の工期になると想定している。

【委員】 資材価格の高騰に対応したスライド条項の適用はあるのか。

【事務局】 本市契約約款に記載もあるので、対応する予定である。

【委員】 近年激しく物価が変動しているので、スライド条項の内容は事業者の参加判断に大きく影響すると考える。特に長期間の工事は事業者が参加を見送る傾向にあるので、しっかりと対応する必要がある。

【委員】 2段階の審査となった場合、実績審査のみで参加者の当落を判断するのはどうか。

【事務局】 本件ではプレゼンテーション・ヒアリングを経て、技術審査をすることとしているので、参加者が多数となった場合には1日で対応できる範囲で限定する必要がある。そのうえで実績審査は事務局による定量審査としており、その審査方法は今後の委員会にて確認いただいたうえで設定する予定としている。

【委員】 監理技術者の資格要件として、一級建築士のみで一級建築施工管理技士を所持していない者でも可としてよいか。施工業務であるため、一級建築施工管理技士は重要と考える。

- 【事務局】 建設業法では、一級建築士の資格の場合でも、国が定める特別講習を受けたうえで監理技術者の資格を得ることができるのでそのように設定している。
- 【委員】 各々で資格の内容は異なるが、実績審査を行う場合に実際どのような資格の方が、監理技術者として配置されるかということになるので、資格としての最低基準と実績をどのように配点するのかということは、併せて議論した方がよいと考える。その内容についてはまた示していただければと思います。
- 【委員】 免震構造で事例の多い病院を実績要件に加えてもよいのでないか。
- 【事務局】 実績要件について検討を行う。
- 【委員】 加算方式と除算方式については加算がよいと考えるが、実績審査、技術審査の評価点と入札価格審査の評価点の比率については、入札価格審査の評価点の算出方法も考慮して検討が必要である。入札価格審査の評価点の算出方法は示していただいた以外にもあると思うので、それらの比率と合わせて様々な方法を考慮して検討願う。
- 【委員】 技術提案を重視していると思いを示すのであれば、技術点を大きくした方がよいとも考える。一方で市の財政も厳しい中での事業であるため、価格を軽視することはできないので、バランスのとれた比率にした方がよいのではないかという考えもある。
- 【委員】 技術審査の評価点について、最低基準を設けることも必要ではないかと考えます。
- 【委員】 地元貢献、地域活性化について、どのように考えているか。
- 【事務局】 一定の評価を行う必要があると考え、地域貢献について提案を求めたうえで、評価するものと設定している。
- 【委員】 技術提案として、VE 提案を求める必要はないか。施工者のノウハウを活かした構工法の提案などを求めればより良いものができるのではないか。その部分もご検討いただければと思います。
- 【委員】 提案項目の「その他」にある「環境負荷低減」については、その他に含めず、別だしとした方が見え方がよいと思われる。
- 【委員】 委員名の公開については、公開することのメリットデメリットを踏まえて継続検討としたい。非公開とした場合でも、学識経験者と庁内委員の構成を示すだけでも事業者にとっては検討材料となりえる。

(3) 新庁舎建設工事の事業者選定に係る委員会のスケジュール（案）について

- ・今後のスケジュールについて事務局より説明

3. その他